

第5回 新一般廃棄物最終処分場候補地選定委員会 会議録

1 開催日時 令和7年2月21日（金）午後3時00分から午後4時15分まで

2 開催場所 名取市役所議会棟第1・第2委員会室

3 出席者

(1) 委員

濱田 雅巳 委員（委員長）、山田 一裕 委員（副委員長）、山口 晶 委員
劉^ゆ庭^{じよん}秀^す 委員、後藤 康宏 委員

(2) 事務局（名取市）

小畑生活経済部長、朽木クリーン対策課長、
石川クリーン対策課長補佐兼クリーン対策係長、高梨クリーン対策係主事、
石川クリーン対策係主事

(3) オブザーバー

亙理名取共立衛生処理組合 山田業務課長、水戸業務課長補佐
(株) エイト日本技術開発 福島氏 他2名

4 会議の公開・非公開の別

公開で開催

5 傍聴者 2名

6 会議の記録方法

委員名を除いた要点筆記

7 挨拶 濱田委員長

今回は建設可能エリアを視察してご意見を頂戴した。今後、専門コンサルタントによる調査をお願いすることになるが、具体的な評価をどのようにしていくのか、忌憚のないご意見、ご提言を頂きたい。

8 報告事項

(1) 第3回委員会以降の検討経過について

報告事項(1)第3回委員会以降の検討経過について及び(2)第3回 住民説明会における質疑応答についてに基づき、事務局より説明

以下、委員からの意見等

<委員>

スケジュールはなるべく早く、前倒しで進めないといけないと思う。必要があれば、未定稿の資料について委員へ事前にご意見を伺い、会議は意思決定、取りまとめの場としてもらいたい。

<事務局>

第7回委員会を7月に、第8回委員会を12月と予定している。可能であれば早めに進めていきたいが、状況次第となることをご了承いただきたい。

<委員>

住民の意見を見てみると、技術的な問題、経済的な問題、公平性の問題が上がっている。調査による定性的、定量的な分析は重要であるが、住民への情報周知の話や公平性の話が出ているので、住民へしっかり情報共有を図り、ご意見をしっかり伺った方がよい。

<委員>

出来ることと出来ないことがあると思うが、地域の意見については、事業を進めていくうえでなるべく反映させてもらいたい。

9 議事

(1) 詳細調査の評価項目(案)について

資料3に基づき、事務局及びコンサルタントより説明。

以下、委員からの意見等

<委員>

評価項目 No1 「土地利用上法規制」について、建設可能エリアを10箇所から5箇所に絞るときに1回行っているのではないか。

<詳細調査業務委託業者>

再度、確からしさを確認するため評価項目に入れております。

<委員>

評価項目が12項目あるが、その優劣の順位付けをする際、項目間で優先順位のような重み付けのような考え方はしなくていいのか。

<事務局>

重み付けは必要だと認識しており、次回までに決めたいと考えております。

<委員>

評価項目 No2 の「災害危険性」について、「災害危険性のリスクがない」を「リスクが低い」といった文言にするなど調整したほうがよい。また、リスクがあった場合の対応の容易というのは、経済的な対応なのか、或いは人が感じる不安要素を取り除くソフト的な対応なのか、対応メニューが分かるとよい。

<事務局>

文言を修正いたします。

<委員>

評価項目 No5 の「運搬効率」について、スクールゾーン等のルートは避けて検証したうえで、運搬効率を算出して評価をするべきではないか。

<事務局>

内容を検討いたします。

<委員>

評価項目 No8 の「水環境保全」について、クローズド型を選ぶのであれば、地表水として川や池に流れ込むといったリスクが高い水ではないと思うので、ここの考え方は地下水になるのか。その場合、文言を地下水といった表現に見直したほうがよいのではないか。

<委員>

地下に漏水しない対策を講じた上で処分場を建設するので、地下へ漏水する前提の話になるのはいかがなものかと思う。文言として入れるのであれば、慎重に検討してほしい。

<事務局>

内容も含めて整理いたします。

<委員>

評価項目について、例えば分類を「社会的な面」、「環境的な面」、「経済的な面」のカテゴリーに分けて、さらにそれぞれのカテゴリーの中に項目を設けて、候補地5箇所の中で順位をつけた上で、◎・○・△とそれぞれの評価をする方が定量的な分析になるのではないか。各項目について、一般的なレベルで線引きをし、他自治体の事例で行った評価基準も参考にしながら進めてはどうか。

<事務局>

カテゴリーの分類は検討いたします。5箇所の明確な順位付けについては、現時点では想定しておりません。

<委員>

リスクをどこで線引きをするのか。リスクは0ではないので、リスクの度合いを下げればコストが下がる、ただし環境面での配慮が足りなくなるとか、そのようなシミュレーションで評価をできないか。

重み付けも重要であるが、リスクの度合いについて、ここを譲ればこのようなメリットがある、或いはここをもう少し高くすればコスト負担が大きくなるとか、そのような見え方にすれば、より定量的な分析が可能ではないか。

<事務局>

そのような考え方を取り入れることができるか検討いたします。

<委員>

評価項目 No 2 の「災害危険性」について、大雨や津波、活断層が影響する地震の発生確率はそれぞれ異なるので、それを平等に評価するのは難しい。また、建設する箇所によっては、軟弱地盤や地盤沈下もあり、例えば、山間部は傾斜の角度によっては崩れやすくなる、或いは地形によって受け盤とか流れ盤とか色々あると思うので、建設することによって発生する災害リスクもある。災害の種類も違う中で、それらをどのように評価するのか難しいと感じる。

<委員>

自然災害のリスクを軽減するためには、費用対効果を考慮して対応策を検討する必要がある。津波浸水エリアを候補地とすることについても、遮水壁や構造物を造りリスクを下げる方法があるが、多額の費用がかかる。こういった対策を取ればこの部分はクリアできる、それについてはこの評価項目で評価するといったものが必要かもしれない。

<事務局>

評価の仕方を整理いたします。

<委員>

違う項目を一つ整理してしまっているの、それは分けてもらいたい。

評価項目 No 1 の「土地利用上法規制」について、農地と空地ではその後の補償等が違ってくるのではないかと思うが、実際の土地利用は調査しないのか。

評価項目 No 3 の「地質、地下水位等」について、地形は災害危険性で評価となっているが、これは災害の問題ではなく、その土地が持っている特性の問題ではないか。

評価項目 No 4 の「道路整備状況」と評価項目 No 5 「運搬効率」について、交通量調査は実施しないのか。また、評価項目 No 5 の距離とルート（スクールゾーン・住宅地・狭隘道路）は、住環境への影響といった別項目で評価をするべきではないのか。

評価項目 No 7 の「生活環境保全」について、景観や生活環境への影響はこれと別物ではないのか。

評価項目に文言がないが、山側で雨水の流域面積を考慮する必要はないのか。流域面積を背負っているエリアに処分場を建設すると、流水の経路を設ける必要があるのではないか。また、希少動物や自然の改変、植生分布は調べる必要がないか。

<事務局>

内容も含めて整理いたします。

<委員>

候補予定区域で残った中に、文化財がある可能性はないのか。

<事務局>

文化財は最初に外しており、新たな文化財は発生していないという認識です。

<委員>

項目 No 10 の「経済性」について、概算整備費は、造成工事に係る費用もしくは維持管理費に仕分けできるとよいと感じた。造成工事に係る費用が含まれている場合、項目 No 7 の景観や項目 No 9 の「施設配置」とダブルカウントになるため、整理をしたほうがよいのではないか。

<詳細調査業務委託業者>

項目 No 9 は、施設配置が可能か検討するために入れているが、頂いた意見については整理させていただきます。

<委員>

造成工事による地形改変が災害になる可能性もある。経済性と関連がないところで、地形改変の大小が災害に繋がることもあるため、考慮したほうがよい。

<委員>

跡地利用のしやすさも今後考慮したほうがよい。用地選定の要素となる場合がある。

<委員>

希少動物など、環境アセスメントが入る予定はあるのか。

<詳細調査業務委託業者>

最終処分場などの一般廃棄物処理施設を設置する場合、設置届出書を提出し、生活環境影響調査をすることになっている。廃棄物処理法上で決まっているアセスメントは、希少動物は含まれていない。

(2) 今後の審議予定（案）について

資料 4に基づき、事務局より説明。

10 その他

事務局より次回開催日程調整を行うことを伝えた